

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q

日本語の教え方についての研修を受ける機会がありません。どんな点に注意すれば、上手に教えられるようになるのでしょうか。

A

毎日の授業の中には、授業の改善につながるヒントがたくさんあります。まず、自分の授業をよく観察することを出発点にしてください。自分で問題点を見つけ、その解決策をたて、次にその解決策を授業で試してみること、この繰り返し教え方の改善につながります。

自己研修のすすめ

じ こ けんしゅう

1. 教案を書く

「教案」を書くことは、学習項目を整理し、授業の目的を明確にし、授業の流れを考えることにつながります。簡単なメモでかまいませんから、必ず教案を書きましょう。

2. 学習者の反応に敏感になる

「教案」で計画したことがその通りできるのがよい授業とは限りません。生身の教師が教室にいる意味は、学習者の反応をとらえ、授業計画を調整していくことにあります。学習者の反応はどうだったか、どんな質問ができたか、教案を変えたのはどんな点でその理由は何かについて、授業のあとで考える時間をとってください。そして、それを教案にメモしてください。この中から、自分の授業の改善点が見つかるはずですよ。

3. 教師のネットワークを利用する

「3人寄れば文殊の知恵」ということわざがありますが、よい授業のイメージや授業を見る観点は教師によって異なります。教師同士で、授業や教案を見せ合う、授業のアイデアを交換する、また、授業のあとで感想を述べ合うだけでも、思わぬ発見があるはずですよ。それが、学校や地域の日本語教師との勉強会に発展していけばこんなに心強いことはありません。

コース全体を見る目を養う

ぜんたい み め やしな

「コース・デザイン」という言葉があります。これは学習者をとりまく諸条件に考慮して学習者にとって最適な学習課程を計画するという意味で使われます。教科書を最初から順番にできるところまですすめるのはコース・デザインにはなりません。コースの終わりに学習者が身につける日本語はどんなものか（到達目標）、そのために何を学習しなければならないか（学習内容）、そしてどんな練習をすればよいか（学習方法）という長期的な計画を教師はもっていなければならないのです。日々の

一コマの授業をコース全体の地図の中で確認していく作業を忘れないでください。

教えているクラスの特徴を知る

おし とくせい し

教授法のクラスで教え方のアイデアを紹介すると、「私のクラスには合いません」と言われることがあります。それは、クラスによって次のような点がちがっているからなのです。

- ① 学習者のニーズ、レベル、学習スタイルや好み
- ② 教材、教室や施設などの条件
- ③ コースの目標、カリキュラムやシラバス、試験など
- ④ 教室の外にある日本語の環境

これらのちがいはあって当然で、教師にとって大切なのは、紹介された活動や教材などをクラスに合わせていく工夫です。そのためには、教師が自分のクラスの特徴をよく理解していることが大切です。みなさんのクラスの場合はどうか、①～④について常に考えるようにしてください。

練習の質を考える

れんしゅう しつ かんが

授業で学習者にさせたことをメモしてみましょう。

例：①教科書のモデル会話を声を出して読み覚える。

- ②教科書の会話テープをきく。
- ③勉強した文型を使って3つ文を作る。
- ④日本語をつかったゲームをする
- ⑤グループになって、週末したことを自由に話す

みなさんが書いたメモの中には、学習者自身が自分の経験や考え、気持ちを日本語で表現する活動がありました。①～③のような練習だけをいくらしても日本語が使えるようにはなりません。クラスの中で「日本語で自分の言いたいことを表現し、友人の発言が理解できたという経験」が必要です。「教えることが多すぎて時間が足りない」という声をよくききますが、時間がながいからこそ練習の質を考えることが大切ですよ。

第13号の「Q&Aネットワーク」から長く続いた「海外日本語教育Q&A」はこれで最終回となります。次の42号からは、教授法については「授業のヒント」文法については「初中級の文法指導（新連載）」インターネット関係の情報については「日本語教育ホームページ紹介（新連載）」でとりあげます。これからも海外でがんばっているみなさんの琴線に触れるような誌面をつくっていきたいと思います。

このコーナーの担当者：藤長かおる（Kaoru-Fujinaga@jpf.go.jp 日本語国際センター専任講師）